

行田らしい食事が健康につながる

1月17日、VIVAぎょうだで「健康レシピ発表会」が行われました。

これは、地元農産物などを使い健康につながる行田らしいメニューとして、市内飲食店が提供する食事について一定の条件を満たしたものを「健康レシピ」として認定するものです。この日は、行田市健康レシピ開発委員会のメンバーらによる試食を実施。創意工夫されたサラダランチや食塩量を3グラム以下に抑えた豆腐ハンバーグなど16品が健康レシピに認定され、14店舗に認定ステッカーが贈呈されました。



ヤマタノオロチが古代蓮の里に出現

平成29年12月23日から3月25日にかけて、古代蓮の里で巨大なわらアートが展示されています。

今年のテーマは田んぼアートで描かれたスサノオノミコトの伝説に登場する8つの頭を持つ「ヤマタノオロチ」。高さ約6メートル、全長約16メートルにもなる作品で、大きく開けた口から内部に入り、通り抜けることができます。わらアートを見に来た子供たちは、内部を駆け抜けたり、触ってわらの感触を楽しんだりと巨大なアートを体全体で楽しんでいました。



地域防災を担う勇姿を披露

1月6日、産業文化会館・市役所前および水城公園で平成30年行田市消防出初式が開催されました。

正午のサイレンを合図に式が始まり、厳粛な雰囲気の中、消防職団員による服装規律点検や消防自動車分列行進などが行われました。また、北部第8分団と南部警備隊による消防操法模範演技では、団員らが一糸乱れぬ動きで放水を披露。地域防災を担う勇ましい姿に、詰め掛けた人々から惜しみない拍手が送られていました。

節目の年 平成30年へのカウントダウン

12月31日、忍城址の鐘楼を中心に毎年恒例となっている「行田ゆく年くる年」が開催されました。午後11時30分過ぎから鐘つきが始まり、年が変わる10秒前から、忍城おもてなし甲冑隊らがカウントダウンを開始。新年になった瞬間、大勢の来場者から歓声が湧き、平成30年の幕開けを喜びとともに迎えていました。



相手の動きを読み勝利の一手を

1月13日、第32回行田市少年少女将棋大会が中央公民館で行われました。

この大会には、市内の小・中学生80人が参加。出場者は真剣な表情で盤に向かい、相手の動きを読みながら勝利への一手を模索していました。試合後は、学年や学校の違いを越えて戦法や駒の動かし方などの話をし、交流を深めていました。また、和田あき女流初段による指導対局もあり、出場者にとって将棋の腕を磨く良い機会となりました。



新年の喜びを写真に収める

1月1日、古代蓮会館では毎年恒例となっている古代蓮会館迎春企画タワーからみんなで見よう「初日の出」が開催されました。

当日の朝の気温は氷点下1.6度。午前6時55分ごろ、かすみがかかった景色の中、空をオレンジ色に染めながら真っ赤な太陽が昇り始めました。高さ50メートルの展望室では、初日の出を心待ちしていた70人の来館者たちの歓声と携帯電話のカメラのシャッター音などが響き、新年の幕開けを喜ぶたくさんの笑顔があふれていました。



子どもから大人まで新年の初笑い

1月5日、商工センターパブリックホールで新春のぼ一座による劇「足袋蔵の町に鼠小僧現る！」が開催されました。

忍城おもてなし甲冑隊のパフォーマンスを演出している野原のぼさんが中心となり、子どもから大人まで楽しめる時代劇を熱演。コミカルな動きや台詞まわしに観客からは笑いが起こっていました。最後はお菓子が振る舞われ、楽しい初春となったようです。